



アグリ・コアと相馬わさび ～「葉わさびまるごと」のご紹介～




クミアイ化学グループ
Kumiai Chemical Group
<http://agricore.co.jp>

アグリ・コア株式会社
代表取締役社長 吉村 巧

1

アグリ・コアの概要

- ▶ 本 社： 福島県相馬市柚木字一ノ坪115-1
- ▶ 東京支社： 東京都台東区池之端1-4-26 クミアイ化学工業ビル1F
- ▶ 設 立： 2007年4月 （平成19年）
- ▶ 資 本 金： 1,000万円（資本準備金含む）
- ▶ 代 表 者： 代表取締役社長 吉村 巧

【事業内容】

- ◆ 農産物（葉わさび・パプリカ）の生産・販売
- ◆ 栽培技術（葉わさび・トマト・パプリカ）のライセンス
- ◆ 施設園芸用環境制御システムの開発及び販売
- ◆ 栽培管理データベースシステムの開発及びライセンス販売
- ◆ 特殊肥料メービラスの製造・販売
- ◆ 植物栽培用微生物培養土（コア培養土）の製造・販売
- ◆ バイオガス発電用消化液循環システムの開発及びライセンス

2

沿革

- ▶ 2007年 4月 アグリ・コア設立
- ▶ 2018年 研究開発を担う本社を相馬市に移転
- ▶ 2019年 5月 地域復興実用化開発等促進事業「アグリセンシングを活用した山葵栽培技術の葉わさびの研究開発」で採択
- ▶ 2020年 5月 地域復興実用化開発等促進事業「アグリセンシングを活用した山葵栽培技術の葉わさびの研究開発（継続）」で再採択
- ▶ 2021年 6月 バイオガス発電用消化液循環システムにかかる特許取得
- ▶ 2022年10月 株式譲渡によりクミアイ化学工業株式会社の子会社化
- ▶ 2023年 「相馬わさび」が相馬逸品に認定
- ▶ 2024年 6月 相馬わさびを使用した「ごはんのおとも あおさとわさび」（マルリフーズ）が「相馬ブランド」認定
- ▶ 2024年12月 第10回ふくしま経済・産業・ものづくり賞で銀賞を受賞
- ▶ 2025年 4月 「葉わさびまるごと」しょうゆ漬け 発売開始
- ▶ 2025年 6月 「葉わさびまるごと」しょうゆ漬けが相馬ブランドに認定

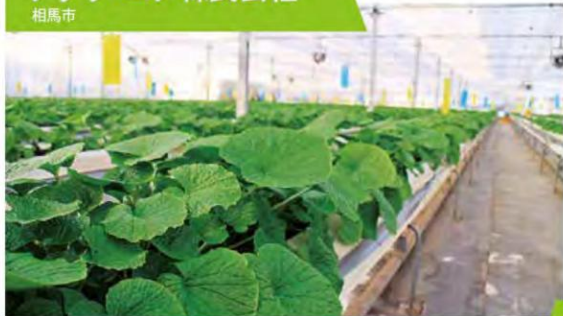


3

福島イノベーション・コースト構想_地域企業参画事例ガイドより引用

アグリ・コア株式会社

相馬市



わさびの周年栽培ができる環境を構築

■補助金の活用 / 地域復興実用化開発等促進事業費補助金
■支 援 / (公財) 福島イノベーション・コースト構想推進機構



代表取締役社長 吉村 巧さん



葉わさび産地の復活・再生に挑み、 超促成栽培技術を確立し、ライセンスの展開へ



▲企業情報

東日本大震災の発生以前、雲山・月舘・飯館などの中山間地は葉わさびの一大産地でした。しかし、原発事故の影響により栽培面積は激減したため、相馬市にて葉わさび産地の復活を目指し、微生物を生育に活用する新たな栽培技術で生産量の回復に挑みました。

当社は枯草菌（R814）と酵母菌を組み合わせた特殊肥料「メーピラス」を開発し、2009年より販売しておりますが、その特殊肥料と微生物培養土（コア培養土）を用いて通常2年半から3年を要する期間を約

2.5カ月に短縮する超促成栽培に成功しました。また、温室の環境制御システムを導入し、最適な栽培環境とクラウドシステムで栽培管理を視覚化することで省力化と安定した収量を実現しました。

現在、地球温暖化や自然災害の影響を受け、わさびの生産量は全国的に減少していますが需要は高まっています。そこで当社は、わさびの栽培技術のライセンス提供も推進し、全国に展開しています。

4

イノベ参画のきっかけ

2018年、福島県の担当課に事業相談した際に支援制度を紹介され、「葉わさびの生育情報を数値化するアグリセンシングを活用した山葵（わさび）栽培技術の研究開発」に対しての支援を受けております。また、実用化による今後の展開に向けた販促や人材雇用、特許取得など多岐にわたり、手厚いサポートもいただいております。支援の条件であった「開発による実用化」ができたことも自信につながっています。現在は、相馬市を中心に地産地消の販売を展開しながら首都圏の飲食店や小売店への販路も拡大しております。



茎や葉が大きく育った葉わさび



今後の展望

近年、海外の和食ブームに伴い、わさびの需要は年々増加傾向にあり、価格も高騰しています。また、食用だけでなく、わさびの有効成分（抗菌・消臭）なども注目され、化粧品など新たな発展の可能性も期待できます。わさびの超促成栽培などの技術の活用も含め、クミアイ化学工業㈱の傘下にあるアグリ・コアならではのネットワークを生かし、グループ丸となってライセンスビジネスの拡大を目指してまいります。また、他の作物の生産性向上のニーズにも応えて研究開発に取り組み、新たな技術を確立していきたいです。



環境制御システム（温度、日射量等）



5

相馬わさびについて



6

相馬わさびの特徴

わさびは一般的な野菜と違い収穫まで長い時間がかかる、希少なものです。本来涼しい気温、冷たい清流で育ちますが当社では、独自の栽培方法で管理しております。沢で作られるわさびと遜色なく、自信を持っておすすめいたします。わさびには多くの品種がありますが、弊社では主に正緑や鬼緑を栽培しております。



- ✓ 後継者不足問題の解消
- ✓ 安定供給
- ✓ 葉わさびの超促成栽培可能
- ✓ 用途の幅が広がる
- ✓ 収量UP

7



根茎わさび

根茎は、土による栽培では大きくなりにくいとされていますが、それを可能としました。



葉わさび(10月～6月)

わさびの葉と葉柄部分。シャキシャキ食感と爽やかな辛味がお料理のアクセントに大活躍です。



花わさび(2月～3月)

春先に四辺の可憐な花を咲かせます。茎が空洞になっており味なじみが良く、一足早く春の訪れを感じさせてくれます。



がにめ(12月～3月)

冬から春にかけて芽吹くわさびの新芽。辛味が強くわさび好きにはたまらない珍味。収穫の難しさから市場に出回することは珍しく、もっとも希少。

8

わさびの成分と用途について



本わさびには複数の機能性成分が含まれており、その成分の効果・効能に着目して、主に健康食品や化粧品への利用が考えられます。

本わさびの主な機能性成分			主な用途	
部位	成分名称	効果・効能	カテゴリ	商品例
根茎	①6-MTIC	抗菌・消臭作用	健康食品	 サプリメント
		花粉症軽減効果		
葉	②6-MSIC	ダイエット作用 (脂肪燃焼作用)	化粧品	 化粧水・乳液など
		抗酸化作用		
	③イソビテキシン	血流改善作用		
		発がん・転移抑制作用		
	④イソサボナリン	炎症抑制作用	その他	 抗菌剤 消臭剤
		美肌効果		
		育毛効果		

出所：金印HP

9

葉わさびまるごとしょうゆ漬



この度、相馬わさびがより身近に楽しめるよう、美味しさを広めるための新商品『葉わさびまるごと』を開発し、本年4月より販売を開始しました。この商品は、管理されたハウス内で収穫したひととき美しい葉をそのまましょうゆ漬けにして、ご提供を実現。辛味を添加せずに葉わさび本来の香りと辛みをまるごと閉じ込めました。刻んでそのままはもちろん、和え物やお茶漬けにしても楽しめます。わさび葉寿司や太巻きにお使いいただければ、おもてなしに喜ばれます。この商品を通じて「暮らしのなかにわさびを」という私たちの思いを消費者の皆様にお伝えします。



10

サステナビリティ／アグリ・コアの持続可能性

アグリ・コアのわさび栽培

- ▶ 2011年の東日本大震災により福島県北部の中山間地で行なわれていた畑わさび栽培の生産が壊滅。さらに、地球温暖化や自然災害、高齢化などにより、畑わさび、沢わさびともに生産量が大きく減少しています。そのような中、近年の世界に広がる日本食ブームでわさびの需要は世界的に高まっています。アグリ・コアは、福島県のわさび栽培の復興と需要に応える安定的な生産を目指して、微生物とITを駆使した安全・安心で環境に優しい栽培技術を開発・実用化し、平地の環境制御温室でわさびの超促成栽培を行い、また栽培方法をライセンス提供しています。



地域貢献活動

アグリ・コアは「相馬わさび」の生産・販売を始めとして、地域の皆さまとの繋がりを大切にした地域に根差した事業を進めております。クミアイ化学グループの一員として、事業を通じて持続可能な社会の実現に向けて取り組んで参ります。



Out of KidZania in 福島相馬



地元高校生相馬農場視察



福島観光協会主催の農場視察と収穫体験

アグリ・コアが取り組むSDGs



2 飢餓をゼロに

微生物とITを駆使した新たな栽培技術により、化学農薬や化学肥料の使用を最小限として環境制御温室内で生産量が減少している「わさび」の超促成栽培を実現し、安全安心で環境に配慮した農業に貢献しています。



4 質の高い教育をみんなに

2023年9月より「Out of KidZania in ふくしま相双」に参加して仕事体験プログラム「わさび生産者の仕事」を実施し、子供たちにわさび生産を通じて農業を知っていただく機会を作っています。



5 ジェンダー平等を実現しよう

わさび栽培に関わる従業員の女性比率は57%となっています。

13

アグリ・コアが取り組むSDGs



6 安全な水とトイレを世界中に

通常の沢わさびでは1kgを収穫するのに約30トンの水が必要のところ、本栽培技術では20分の1の量でわさびを栽培できます。



7 エネルギーをみんなに、そしてクリーンに

メタンガス発電の課題である発酵残渣の削減技術である消化液循環システムの特許を取得し、受託研究を実施しています。



12 つくる責任、つかう責任

コア培養土は繰り返しの使用が可能であり、廃棄物の削減に繋がっています（ロックウール等は使用後、産業廃棄物となる）。

14